NPO法人棚田ネットワーク会報誌　第70号

棚田に吹く風

2010
5月号
Vol.70
隔月刊

2 「棚田に吹く風」リニューアル号　特別企画
わたしたちは棚田の応援団！？

5 フォトエッセイ
棚田のあるところ

6 棚田・里山からのたより
オーナー制度発祥の地から
～千枚田ふるさと会の活動～
高知県梼原町　神在居の千枚田

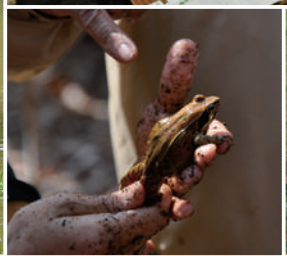
8 田んぼの生き物たち
たなだNET NEWS

9 棚田博士は今日も行く
通潤橋によって拓かれた棚田
熊本県山都町　白糸台

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
kamyのつぶやき

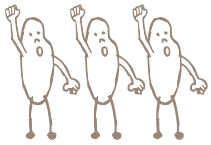
15 Project Report



「棚田に吹く風」リニューアル号 特別企画

わたしたちは棚田の応援団!?

棚田ネットワークの活動を整理してみました。



95年12月に14人で始まった小さな市民活動は、月日を経て、さまざまな活動へと広がっています。今回の特集では、15周年を節目に、わたしたちが目指すべき未来のヴィジョンを皆さんと共有するために、あらためて棚田ネットワークの始まり、そして現在の運営コンセプトと活動領域を整理してみました。

現在、棚田ネットワークはいろいろな活動に取り組んでいます。それらを支えるのは、棚田保全に情熱を燃やす一般市民のボランティアです。しかし、これらの活動をもう一ランクステップアップするためには、まだまだマンパワーが不足しています。

時代の流れの中で、棚田の価値が見直され、棚田ネットワークへの社会的な期待もますます大きくなっています。とりわけ棚田地域からの期待に応えられるようになるためには、もっとたくさんの会員に運営や企画に直接関わってもらい、活動の幅を拡げ深めていく必要があります。

「これなら参加できる! こんな活動もしてみたい! 自分の活動とつなげたい!」。皆さんの力が棚田ネットワークを、そして棚田を未来へつなげます。

棚田ネットワーク 6つのキーワード

記録する

全国の棚田地域を訪問し、現状を確認したり、保存会や地域で活動している方々への聞き取り等を通して、棚田を取り巻く環境を把握。調べた情報を整理し公開。必要に応じて更新を行い、棚田保全・支援活動のための基本データとする。

- 棚田調査プロジェクト
- 栃木県茂木町「田んぼの生き物調査」

伝える

会報や各種印刷物の発行、Webサイトやブログの更新、セミナー・シンポジウムの開催、イベントの企画・実施、イベントへの出展などを通して棚田情報を広く発信。棚田をより魅力的に感じてもらうための普及・啓発活動。

- 会報誌『棚田に吹く風』、ブログ版『棚田に吹く風』
- Webサイトでの棚田情報の発信
- 棚田フェスティバルの開催
- 環境ボランティア見本市やエコプロダクツ展への出展

交わる

棚田保全団体、その他関連団体(NPO・企業・大学[学生]など)との積極的な交流、協働を推進する。

- 棚田保全団体交流・勉強会
- 岐阜県立国際園芸アカデミーとの協働プログラム

場をつくる

セミナーや各種イベントなどを企画・実施し、会員非会員を問わず、幅広く棚田への関わり方を提案したり、体験プログラムを提供し、棚田と人、人と人がつながる場を作る。

- 棚田フェスティバルの開催
- 棚田での田植え・稲刈りなどの作業体験
- ボランティア説明会　など

つなぐ

地域間のネットワーキング、オーナー制度や体験プログラムなどを実施している棚田地域の一般への紹介、企業のCSR活動のサポート、棚田米の販売支援。

- CSR活動サポート
- 棚田保全米事業

手伝う

耕作放棄地の復田、耕作維持のための農作業支援、生態系保全のためのビオトープづくりなど、現地での実践活動を行う。

- 岐阜県恵那市「棚田ビオトープ岐阜恵那」
- 新潟県佐渡市「トキの餌場づくりの復田プロジェクト」

棚田ネットワークとは

〈 シンボル 〉

棚田の応援団

わたしたちは棚田の応援団です

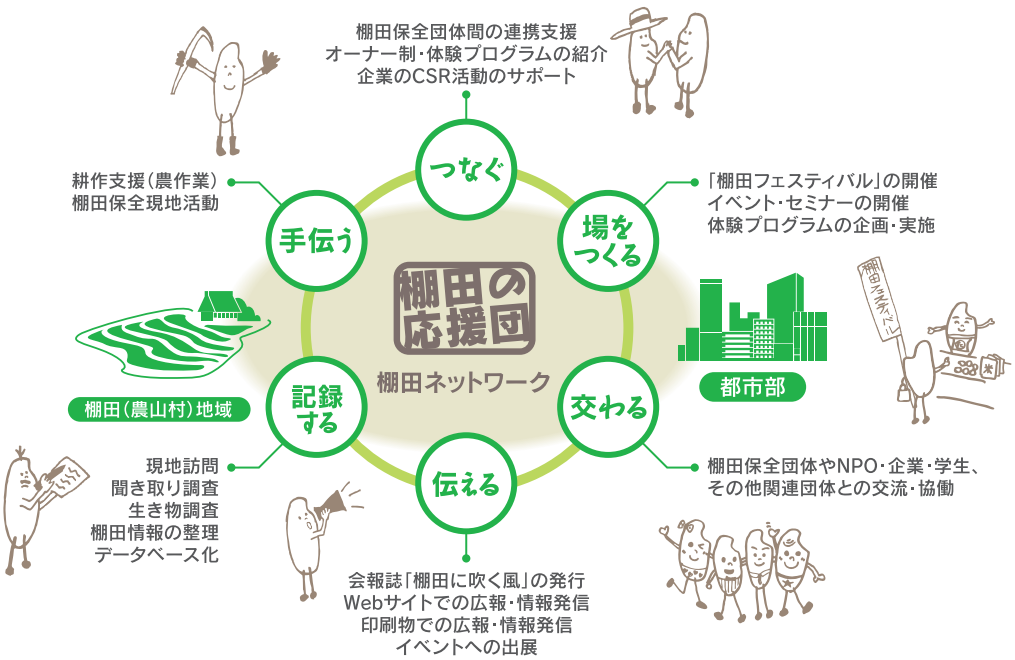
〈 基本理念 〉

わたしたち棚田ネットワークは、
祖先の知恵と苦労がぎっしり詰まった大切な財産「棚田」を
ひとつでも多く残し、そのすばらしい文化を後世まで伝えていくための
様々な市民活動に取り組んでいきます。

〈 活動原理 〉

わたしたち棚田ネットワークは、
棚田地域および保全に携わる人々の**“思い”**と
棚田に関心を持つ都市住民の様々な**“思い”**をつなぐ
“きっかけ”や**“場”**を創出し、
そこから生まれるアクションを育て、サポートしていく
『棚田の応援団』です。

活動方向性イメージ



棚田地域と都市部の人々の「思い」をつなぎ
そこから生まれる様々なアクションを育て、サポートしていく

棚田ネットワークは今年の12月で満15歳。発足当時はどんな「思い」から活動を始めたのでしょうか？高野光世 事務局長に聞きました。

上：「棚田に吹く風」創刊号・第２号と会紹介のパンフレット
左：初期の頃の活動（新潟県松之山町・96 年）

ーどうして棚田ネットワークを始めたんですか？

よく聞かれる質問ですね（笑）。うまく言えないので、いつも「時代です」と答えています。最近でこそ経済効率最優先の物差しへの疑問は大きくなりましたが、15年前は小さな主張でした。棚田から発信された微弱な電波が、たまたまアンテナを高く張っていた人に届いた、という感じかな。

1995年9月末に、高知県梼原町で第1回の棚田サミットが開かれ、全国棚田（千枚田）連絡協議会が発足しました。発足時の会員は24の自治体、2つの団体、そして20人の個人。とりわけ個人で参加した人たちは、棚田を守る画期的な組織が出来た、さあこれからどんな活動が始まるのだろう、と期待に胸を膨らませたものです。

ところが、サミットが終わったあとも特に具体的な行動提起はありませんでした。待ちきれなくなった人たちが自分の周囲に声をかけて、その年の12月に棚田ネットワークが誕生しました。手伝ってほしい人と手伝いたい人をつなぎたい。都市に住んでいるけど棚田を応援したい。都市と農村が交流することは大切。そんな思いが原動力でしたね。

ーどうやって会員を集めたんですか？

中心になったのは〈棚田連絡協議会の個人会員〉と〈メンバーの友人知人〉。〈友人知人〉の中には、当時盛んになりつつあったパソコン通信で知り合った仲間もいました。会員数を見ると、発足時14人、初年度33人、3年目で58人です。当時は今と違ってメールもWebも普及していなかったので、毎月もしくは3カ月に2回程度の頻度で案内や報告を郵送していました。事務所開設が4年目（99年）の4月。規約と組織体制を整えて最初の正式な「総会」を開いたのは00年1月でした。

ー初期の活動の様子を教えてください。

中心は現地活動でした。〝棚田を応援したい〟という熱い思いはあるものの、棚田での作業経験はもちろん、写真でしか棚田を見たことがないメンバーもいたので、1年目（96年）はつてを頼って新潟県松之山町（当時）への田植えと稲刈り体験バスツアーを企画。いきなり大型バスを借りてしまったため、果たして参加者が集まるか、当日まで胃に穴があくほど心配しました。2年目（97年）はぐっと地味に、その年から米づくりを始める会員の田んぼ（長野県八坂村：当時）を手伝いながら棚田を体験修行しました。98年春、八坂に加えて千葉県鴨川市の大山千枚田保存会と交流を始め、交流の一部復活した松之山を合わせて3つの地区と連携する原型が出来ました。

ー普通、素人は戦力にならないので手伝いとしてはあまり歓迎されないと思うのですが？

単発でなく何度も通う姿勢が鮮明だったため、半信半疑でも「まぁ、やってみたら？」と思ってもらえたのではないでしょうか。今でも覚えているのは、鴨川で、保存会の皆さんを前に話をさせてもらったときのこと。当時の会のスローガンは《お客さんにならない》。「田植えや稲刈りだけでなく、草刈りも脱穀も手伝いたい」と言ったら「おぉ、それならぜひ来てほしい」と言われました。

ー現地活動の比重は昔に比べて小さくなっているようですが、それだけ活動が多様に広がってきているということですね。ありがとうございました。

フォトエッセイ

棚田のあるところ

写真と文 大塚 雅貴

水田に映える桜

長野県阿智村

中国雲南省で見た壮大な風景が棚田を撮影するきっかけでした。94年から何度も雲南を訪れた後で日本の四季を撮影する仕事が入り、これを機に各地の棚田を歩きました。四国の山奥には転がり落ちそうな急傾斜地に作られたもの、また気の遠くなるような大量の石を丁寧に積み上げたものがあり、どの棚田を見ても米への熱い想いが伝わってきました。中でも春に相応しい長野県阿智村の棚田は桜の美しい場所として有名です。樹高約20メートル。岐阜県との県境、神坂峠へ向かう旧道沿いに咲くこのエドヒガン桜は、源義経が奥州に下る際に馬をこの木につないだことから「駒つなぎの桜」と名づけられました。朝のやわらかい光が淡い色の花びらを照らし出し、田植え前の水辺には鏡を置いたように桜が余すところなく映り込みます。直射光が差す前のわずかな時間、刻々と変化する光景に息を止めてシャッターを切り続けました。見ごろは4月中旬から下旬。

ProFile

写真家
大塚 雅貴
おおつか まさたか

1968年、千葉県生まれ。1993年、写真家・野町和嘉氏の助手としてサハラ砂漠取材に同行。1997年からエジプトでアラビア語留学を経て、リビア、ニジェール、マリなどのサハラ砂漠を取材する。2004年キヤノンマーケティングジャパン(株)カレンダーの撮影を担当。写真集「耕して天に至る～中国・雲南　世界一の棚田」(毎日新聞社)を出版。現在、北アフリカを中心に遺跡やサハラ砂漠の撮影を続け、雑誌や個展などで作品を発表している。

■大塚雅貴オフィシャルホームページ
http://www.photo-otsuka.com

個展

- 2000年「食巧の美」(中国雲南の棚田)開催(銀座キヤノンサロン)
- 2003年「砂が描く大地」(最奥のサハラを行く)開催(銀座富士フォトサロン)
- 2004年「山郷」開催(全国キヤノンサロン)

棚田・里山からのたより

オーナー制度発祥の地から
～千枚田ふるさと会の活動～

高知県梼原（ゆすはら）町　神在居（かんざいこ）の千枚田

左上・中：作業するオーナさんたち／左下：収穫祭での交流／右：青空に映える収穫前の棚田

「四万十川で四万十円で」。1992（平成4）年2月28日、朝日新聞の社会面に千枚田オーナー制度への参加を呼びかける記事が掲載された。それに呼応するがごとく鳴り始めた役場の電話。複数ある回線はすべてふさがり、職員は記事を見て問い合わせてきた人たちへの対応に終日追われた…。こうして始まった我が国初の取り組み、高知県梼原町の千枚田オーナー制度は今年で19年目を迎え、10組のオーナーが米づくりをスタートさせる。

作家、司馬遼太郎氏は自著『街道をゆく・檮原街道（脱藩の道）』のなかで『檮原の千枚田は、えらいものやな』と、私は、まだ行ったこともないくせに、憧れの地としてそんなことを言った。酔ったついでについ、『万里ノ長城も人類の遺産だけど、檮原の随所にあるという千枚田も大遺産やな』といったりした。」（以上、一部抜粋）と著されている。残念ながら梼原に限らず全国の千枚田、棚田は手間がかかるだけで収量も悪く、いわば厄介者の代表格であった、少なくとも千枚田オーナー制度が始まるまでは。

冒頭の新聞記事を見て半ば衝動的に応募した私は、200件余りの応募の難関をくぐり抜け、晴れて16組の初代オーナーに選ばれた。以来、19年、千枚田の米づくりは自身のライフワークになった。これは何も私だけの事ではなく、今年、応募した10組のオーナーすべてが1年以上の継続組という事実が、皆の心情を表わしているようにも思う。取り組み当初、町の審議会ではある委員がこう言った、「誰が金を出してまで田を耕しに来るか！」と。

1995（平成7）年10月に梼原町で開催された第1回全国棚田サミットを機に、千枚田オーナー制度は文字通り全国に波及し、各地

の棚田は厄介者から町おこしの英雄となった。田んぼは金を出してまで田を耕しに来る人々であふれ、自治体は競って本制度を導入したが、今では我こそが仕掛け人と言わんばかりの状況。椿原町での取り組みが同心円的に広がっただけだというのに。先駆けの地に対して、もう少し敬意が払われても良いとは思うが、とある地域では、申し込みの文書や年会費の四万十円まで同じだった、という話を聞いて思わず失笑。涸れてしまわないうちに知恵は使い、敬意を払いましょう。

こうして世間の耳目を集めるようになった千枚田オーナー制度も、過疎高齢化という状況から逃れられたわけではない。19年も経ってくると、「この先何年つづけていけるろうか?」という話も出てくるし、「悪いけんど（年齢的につらいので）抜ける」という人も出てくる。

年会費を払って、年に数回、田んぼの作業にやってくる、というある種のビジネスモデルも千枚田の将来を考えるとそろそろ限界か。ここ椿原町においては、平成13年に定住した私たち家族を筆頭に、二組のオーナーが後に続き定住。一組は途中で挫折したが、今年の継続オーナーのなかには定住希望者も数組おり、オーナーはやめても作業を手伝いに遠方から通ってくる人あり、と実に頼もしい限り。千枚田を取り巻く状況は、年に数回の作業を体験するイベント的なオーナー制度から、その担い手を育成していく次元へと進化する時を迎えているようにも思う。数多いる棚田学者のお一人は「町営住宅など用意して、定住希望者を甘やかすな」と自著に書かれていたが、少なくとも私はそのおかげで念願の定住を果たせたし、担い手の一人として受け入れ農家となり、今回、千枚田ふるさと会の四代目の会長を拝命することとなった。

景観や環境保全のため棚田を有効活用しようというなら、土地持ちの農家だけでなく、私たちのような担い手に対してもっと多くの支援制度があって然るべきと思う。さらに、会議室で千枚田を語る時間と気持ちがあるなら、実際に田んぼに足を踏み入れていただきたい。私たちはこれまでも、そしてこれからも、自らの体を張って土を起こし、水を汲み、石垣を積んで千枚田を守り続けていく。

千枚田ふるさと会　会長
田村　俊夫

椿原町は高知県の中西部に位置し、面積236.51㎢、四国カルスト県立自然公園を有する県境の町です。日本最後の清流・四万十川の源流域にあり、四季折々の変化に富んだ景色の中、独特の文化を育んでいます。
県境という不便な立地条件を、逆にプラスへと転換し様々な施策に取り組んでおり、「太郎川公園」「雲の上の施設群（ホテル、レストラン、温泉、プール）」「風力発電所」「維新の道」「千枚田オーナー制度」などユニークな施設や制度が活用されています。

棚田へのアクセス

【自家用車】高知自動車道高知IC→須崎道路須崎中央ICより国道197号線で約41km。

【公共交通】JR土讃線須崎駅より、高知高陵バス椿原線で約60分、神在居停留所下車。

お問い合わせ

【椿原町産業振興課】
☎0889-65-1250

田んぼの生き物たち

第19回 レンゲ

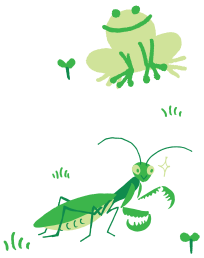
写真：桐原真希

小学校6年間を佐賀県佐賀市で過ごした私にとって、田植え前のレンゲ畑は原体験に刷り込まれた風景の一つです。原産地は中国・台湾とされています。稲作文化とともに日本にやってきた史前帰化植物として数千年前からのお付き合い。もはや日本の田園風景の重要な構成要員です。

レンゲの芸は幅広く、一昔前は牛の餌にもなり、芽生えた頃の若菜はお浸しや天ぷらにして美味しく味わえ、蜂蜜の蜜源にもなります。そして窒素固定の特性を活かした緑肥にもなり、その上、春の里山の風景を彩る役者でもあります。稲作と相性の良いこの可愛らしい花ですが、近年、徐々に日本各地からレンゲ畑が見られなくなっていきました。主な理由は、近代農業の普及により化学肥料の使用と田植えの時期が早くなる品種が広まったことなどがあげられます。

一方で、この数年、生き物ブランド農産物として「れんげ米」と名のつくお米が、全国各地で販売されるようになりました。インターネットでも10種類くらいの商品を見ることができます。農薬や化学肥料を出来るだけ使わないことが、消費者の心をとらえているようです。時代の追い風に乗って、日本各地でレンゲ畑が蘇ることを期待したいところです。

（自然観察指導員　桐原真希）



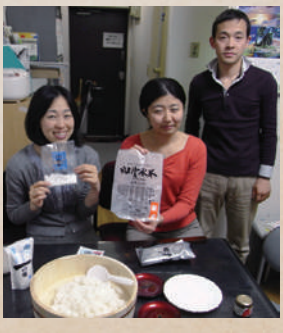
たなだネットNEWS!

サークル「棚田米を食べる会」がスタートしました！

棚田の活動といえば、山奥へ分け入って、田んぼを耕作したり、維持管理のボランティアといったイメージがあって、なんだか敷居が高そうと思う方もいるかもしれません。最近、「なかなか棚田へまでは行けないけれど、東京でできるお手伝いはないでしょうか」とのお問い合わせもよくあります。というわけで、もっと気軽に都心で集まって、楽しくアイデアを練ったり、企画を立てたりする場が欲しいということで、今年から棚田ネットワーク内にサークル「棚田米を食べる会」をつくってみました。

「棚田米を食べる会」は、難しいことはいっさいなし！　ただ、みんなで気軽に集まって、全国の棚田米を取り寄せ、食べてみる。そしてその棚田の情報を共有して、みんなで感想を語り合い、楽しく時間を過ごすといったライトな企画です。

今回は、そのプレイベントの模様を紹介します。4月某日（金）夕7時、昨年のエコプロで展示した新潟県十日町市池谷の「山清水米」を天然水で炊いていただきました。炊きたてのお米を寿司桶に移し、皆さんが持ち寄った、思い思いのご飯の友で味わいながら、棚田に対する思い、こんなこともできる！あんなこともやりたいね！と会話が弾みます。



サークル「棚田米を食べる会」は不定期で開催します。普段、棚田の活動に仕事などで参加できない人たちのために平日の夜、または土日開催を予定しています。

次回は2種類ぐらいを食べ比べしてみたいと思います。皆さんお気軽にご参加ください！

■ 今回食べた棚田米 ■

新潟県十日町市池谷の
山清水米
こちらで購入できます！
http://shop.iketani.org/

棚田博士は今日も行く！

中島峰広の全国棚田行脚

通潤橋によって拓かれた棚田

熊本県山都町 白糸台

熊本県山都町は、阿蘇外輪山の南部を占める矢部町・清和村・蘇陽町の3町村が合併して誕生した町である。これらの地域は、阿蘇山から流れ出した溶岩が台地を形成、それが放射線状の深い谷により刻まれて分離している。その一つの白糸台は、凹地にある山都町の中心市街地浜町の南、四周を緑川とその支流（注1）に囲まれた溶岩台地である。

5月下旬、早朝羽田を発って福岡へ。博多駅前から延岡行きの西鉄バスに乗り、浜町で下車。浜町は、旧矢部町に通潤橋および峰と菅の2つの百選の棚田があるため数回足を運んだ土地。今回は、通潤用水とその受益地である白糸台の棚田景観が文化庁により文化的景観に選定されたことを機に、あらためてこれらを紹介するために訪ねることにした。

通潤橋の歴史

まず、通潤用水の開削を可能にした水路橋の通潤橋について説明しておきたい。前述したように、通潤用水開削前の白糸台は四周を深い谷に囲まれ、水系的には孤立した乏水地であった。台地上は1㌶にも満たない天水田に近い水田があるに過ぎず、アワ・ヒエ・キビ・イモ類をつくる畑地によって占められていた。このような台地に水を引くには、台地面より高い笹原川の上流で取水して城原台に導き、これと白糸台を分けている深さ30㍍、幅80㍍の五老ケ滝川の谷を渡す必要があったのである。

用水開削の気運が高まった幕末期、この地域には有名な種山石工たちの活躍で石橋のアーチ橋が多くつくられていた。しかし、1847（弘化4）年に完成した日本最大の単一アーチ橋といわれる霊台橋でさえ、高さは20㍍、それ以上の高さの橋をつくる技術はなかった。かりに高さ20㍍の水路橋で谷を渡したとしても、用水は白糸台の半分の高さにまでしか達することができず、期待するほどの開田面積をえることはできなかった。

この難題を克服するために工夫をこらし、通潤橋の工事を進めたのが惣庄屋布田保之助である。その工夫は、サイフォンの原理、つまり筧では同じ高さにまで水が上ることが知られていたので、この原理を利用した水路橋をつくったこ

中島 峰広（棚田博士）
早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。 全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

とである。水路橋は川の水面からの高さが21・4㍍、これより城原台側の水の取り入れ口が7・5㍍、白糸台側の吹き上げ口が5・8㍍ほど高い。これはサイフォン工によるものであるが、水の抵抗があるため同じ高さにはならず、およそ80％の高さにしかなっていない。しかし、5・8㍍の高さ、橋の高さを合計すると27・2㍍になることにより、白糸台の開田面積は著しく拡大したのである。

工事は、5年ほど前に霊台橋を完成させた八代手永種山村の石工、卯市と丈八の兄弟が担当、実際は才能があった丈八が中心になって行われ、着工から2年後の1854（嘉永7）年に完了した。（注2）

この工事により、通潤橋の通水管から標高450㍍あたりを流れる上井手の用水路と、架橋工事の際に五老ケ滝川の水を流すため建設された仮排水トンネルを利用して、標高420㍍あたりを流れる下井手の用水路が開削された。その結果、上井手60㌶、下井手30㌶、合計90㌶の水田が白糸台にひらかれ、農民の悲願とされた開田が実現したのである。

白糸台の棚田

2つの井手によって白糸台にひらかれた水田はすべて棚田で、9集落（注3）に分散して分布している。まず、バスセンターから市街地を東へ、下市の交差点を直進して南へ方向を転ずると、左手に通潤橋が見えてくる。白糸台の中央部を縦断している県道180号を南へ進むと、棚田が姿を現わすようになる。

棚田は、台地に刻まれた谷にひらかれている。谷は森に隔てられて独立しており、それぞれの谷頭に上井手が流れ、それより下に棚田が配置されている。尾根の道を進むにつれて道の両側に、幅が異なる谷にひらかれた棚田が次々に姿をみせる。狭い谷では谷底に一段一枚ずつの棚田が十数段連なり、水が張られた田面が光って見える。これに対し、広い谷では谷底と谷壁の斜面にも数段の棚田がひらかれている。傾斜は谷底の棚田が7分の1～8分の1、谷壁の棚田は3分の1～4分の1程度。形は四角形から半円形までさまざま、一般に谷底の棚田は四角形に近いものが多いのに対し、谷壁の棚田は谷に平行にひらかれているため幅が狭く細長い形をしている。1枚の大きさは2～3㌃から10㌃に近いものまで。畝町直しをしたかどうかによる大小の差がみられる。法面は大部分が土坡で、その高さは谷底の棚田が2㍍前後、谷壁の棚田は2～3㍍、なかには5㍍を超えるものもみられる。

台地の中央部、標高462㍍の丘の上にある白糸分庁舎付近からは南に向かってひらけた谷の棚田が望まれる。谷底も谷壁もいくぶん傾斜が緩やかで、1枚が10㌃以上はあると思われる大きな棚田がゆったりと横たわっている。（注4）

上：白糸台「朝寝開き」の棚田
下：白糸台の鳥瞰図

国民宿舎前の交差点を左折、県道320号線を笹原川の河岸にある米内蔵へ下る尾根道が、もう一つの棚田見学のルート。遠く九州山地の山並みを望見できるほど視界がひらけている。坂を下った田吉集落付近では、道の傍らを下井手が流れ、その際まで棚田が迫っている。台地頂部の斜面には高さ5㍍を超える巨大な土坡の法面をもった田が数段列をなし、浅い谷の部分にも台形を湾曲させた形の田が折り重なり、棚田で埋めつくされている。1枚の大きさは4～5㌃、畦は畦塗機で定規をあてたように綺麗に仕上げられ、まるでコンクリートで固められたようにみえる。

これからの白糸台

長原の集会所で、白糸台第一自治振興会の会長と前会長にお会いした。会長は中村俊覚さん69歳。67歳の奥さんとの二人暮らし。60歳まで地元の生コン会社に勤める兼業農家であったが、現在は所有する棚田120アールのうち、100アールを耕作する専業農家。棚田は1970年代に個人でユンボとキャリーを使用、3～4枚を1枚にするセマチダオシを行い25枚に、1枚の大きさは平均5アール。これを乗用トラクター（22馬力）、乗用4条田植機、乗用2条刈コンバインで耕作している。

前会長は坂田弘明さん71歳、66歳の奥さんと二人の高齢者世帯。60歳まで矢部町役場に職員として勤務、週末にトラクターやコンバインに乗る兼業農家であった。現在は95アールの棚田のうち、65アールを水稲、他の転作田でニラを栽培する専業農家。棚田はセマチダオシで1枚が8アールと大きくなったが、そのぶん法面が大きくなり、年4～5回行う草刈作業が大変とのこと。乗用のトラクターや田植機、コンバインなどの機械類が使用される以前、かわりに牛馬が利用されていたため、その餌になる草は長く伸ばされ年2回の草刈ですませていたという。（注5）

二人が語るこれからの白糸台については、現在進めている減農薬・減化学肥料のヒノヒカリのエコ米栽培を定着させること。それによって一部農家が個人的に実現している60キロ当たり置場渡し1万8000～1万9000円の特別栽培米づくりを拡大させて農家の生産意欲をかきたて、通潤橋によってひらかれた棚田の保全を図りたいと仰しゃる。心配なのは後継者の問題。しかし、われわれが白糸台の恵まれた自然のなかで、楽しく生き生きと暮らしていれば、その姿をみてきっと見習う者が現われるだろう。気負うことなく、淡々と語られる二人の言葉に引き込まれ、心配は吹き飛び明るい気分にさせられた。

通潤橋を上から見たところ。橋の奥が白糸台地。

【現在の通潤橋】

通潤橋は1960年に国の重要文化財に指定されました。老朽化を防ぐため水路橋としての役割を終えています。代わりに用水は、通潤橋の取り入れ口から1964年に施工されたヒューム管で谷を渡り、吹き上げ口へ送られます。橋の中央部の側面には通水管にたまった土砂を吐き出す放水口があり、非潅漑期には通水管に水を流し、ここから有料で放水、観光客を楽しませています。しかし、昨年度その回数が数百回に及び通潤橋に負担をかけるため、今年度から大幅に回数が減らされるそうです。

白糸台の棚田へは

棚田博士のポイント

山都町へのアクセスは、博多駅前の交通センターから出ている1日4便の延岡行きか、熊本バスセンターから出ている1日20便の矢部・浜町行きがある。前者は福岡市街地から九州自動車道を南下、松橋インターで高速道と別れ、国道218号を東へ辿り砥用（とも）を経由するルート。後者は熊本市街地から国道445号を辿る13便の御船経由と、国道218号を辿る7便の砥用経由がある。砥用経由は距離が長く便数も少ないが、途中の車窓から通潤橋のお手本になった優美な姿の霊岸橋を見ることができる。

⇒白糸台の棚田を見るには、浜町の市街地から南へ向かう南田内大臣線の県道180号と、途中これから分かれ東へ向かう長原川原線の県道320号線を辿るのが効率的。両者とも台地の尾根の部分を通る道で、眺望がよい。

＊注1 千滝川、笹原川、笹原川支流の五老ケ滝川（轟川）

＊注2 丈八は後に橋本勘五郎と改名。明治新政府によばれて上京し、皇居の二重橋、万世橋、江戸橋、浅草橋、神田橋などを完成させた名工。

＊注3 長野・小原・田吉・米内蔵・犬飼・新藤・小ケ蔵・白石・相藤寺の9集落

＊注4 台地の南部、白石付近の急斜地にひらかれている数段の棚田は「朝寝開き」と名付けられている。看板の説明によれば、惣庄屋布田保之助は工事を短期間で完了させるため、農民の出役に対しても厳しく、日の出と同時に開始される作業に遅れた者には居残りを命じたとある。その作業によってひらかれたのがここの棚田だそうだ。当時の苦労を伝えるためのエピソードとして語られているのであろう。

＊注5 第二次大戦末期には軍が馬の飼育を農家に委託、各農家は1～2頭の軍馬を引きうけて飼い、役畜として利用していたこともあったそうだ。

会員のひろば

会員の声

“限界集落”で農業研修中！

十日町市地域おこし実行委員会
籾山　旭太（新潟県十日町市池谷）

上：ねじり鉢巻きで米販売（エコプロダクツ展で）／右：母校の伝統・大根踊りを披露（集落総会で）

ー昨年の10月から新潟県十日町市池谷集落で農業研修をしています。それまでは茨城にある日本農業実践学園で農場の職員として働いていましたが、「農業の現場に出てみたい」と考え棚田ネットに相談に行ったところ、中島先生にこの池谷集落を紹介して頂きました。

この地域は農作業の傍ら“ムラおこし”活動を地域全体で行っていて、私の日々も農作業とムラおこし活動の両方に追われています。

ムラおこしの目標は棚田保全はもちろんですが、「集落の存続、次世代への継承」を目指し、農業後継者を誘致するための環境作りを行っています。具体的には棚田米「山清水米」の直販や農業体験イベントの実施、水路・農道の維持、雪下ろし等のボランティアイベントを行っています。さらに、行政や企業からの助成を受けるための書類作りも加わり、“スローライフ”とは違うなというのが正直なところです。

池谷集落は2月から「地域おこし協力隊」として3人家族が加わり、7軒16人になりました。とはいえ高齢者が大半の集落なので、2004年の中越震災以来、棚田ネットやJEN（国際協力NGO）などのNPOや、イベントを通じて繋がりの出来た支援者の方々に支えられて今の活動が成り立っていると感じています。

今年の目標は、小規模でもイネの無農薬栽培に取り組んだり、鶏なども飼育する予定です。また「ムラの人と外の人を繋ぐ」事も私の役割なので、色々な方に“ムラおこし”の輪に加わって頂けたらと考えています。特に今年は学生などの時間のある方に、1週間～1カ月単位で滞在し、農村の様々な作業に協力してもらう事を計画しています。興味のある方は是非、連絡頂きたいと思います。

HP、ブログなども是非ご覧ください。

● 連絡先
Mail: chiikiokoshi@gmail.com
Fax: 025-761-7009

● 池谷・入山ガイド
http://www.iketani.org/

会員の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ ご要望、感想やご質問でもOK！（会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて）
〒一六〇－〇〇二三 東京都新宿区西新宿七－一八－一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛
メールでも受付けています ⇩ hiroba@tanada.or.jp

会員レポート

江戸時代の水路を守り続ける

～北アルプスを望む青鬼の棚田～

大久保 芳洋

3月の終わりに、長野県白馬村の青鬼の棚田に行ってきました。スキー客で賑わう国道周辺から東側の山麓に一歩踏み込むと、別世界のように静かな佇まいの青鬼集落がありました。集落の奥に広がる棚田は雪の下でしたが、うっすらと棚田曲線が現れてきており、春の近いことを感じます。青鬼集落では、古民家群と棚田を中心とした、農村文化そのものが守られています。2つの石仏群と馬頭観音、水力で杵を動かして籾摺りを行うガッタリと呼ばれる装置、水源の大木たち、また縄文時代の遺跡まで。集落に点在するこれらの文化財を、長い石段の上から、青鬼神社が見守っています。観光客として青鬼集落を訪れるだけでなく、何か集落の手伝いができれば、という話を集落の方にしましたら、毎年春に行われている水路整備のボランティアに誘っていただきました。

青鬼の棚田の水は、「せんげ」と呼ばれる水路で山奥の沢から引かれています。春の到来とともに、雪の下で落ち葉に埋もれていた水路を掘り返して整備する作業が必要になるのです。江戸時代から守られてきたという大切な水路も、高齢化した集落の方々だけでは維持が大変です。ただし、水路は急峻な崖を横断するように付けられているので、ボランティアの素人が作業するには危険が伴うため、相当の心構えで臨んでほしい、とのことでした。私の場合、少々の登山経験があり、例えば青鬼集落から望む北アルプスの稜線はすべて歩いているので、少しは役に立つんじゃないかと認めていただきまして、雪が消えたらまた青鬼集落に戻ってくることを約束しました。

○青鬼の棚田の水路整備ボランティア
・活動日…4月29日（木・祝）午前中
※興味のある方は、白馬村役場にお問い合わせ下さい。
白馬村役場　0261－72－5000

苗代田の雪かき　神奈川県川崎市　萩谷 篤思

誰もいない広い谷間で、ひとり苗代用の田の雪かきをするKさん。農協から箱苗を買ってくることもできるのですが、美味しいお米の味にこだわるKさんは昔ながらの苗代を続けています。

会員さんの Best Shot!

苗とりの前　群馬県高崎市　高山 承之

春たけなわ。早苗もこんなに育ちました。翌日の田植えを前にこれから苗とりです。世代を超えて稲づくりが伝わる群馬県川場村の棚田です。

会員のみなさんのベストショット募集!!

みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント（70文字程度）を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます！送り先は下記。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16トーシンハイム704号
「棚田に吹く風　ベストショット」宛
メールでも受け付けています ⇨ shashin@tanada.or.jp

編集部イチオシ! BOOK & Movie

MOVIE　いのちの食べかた

2005年／本編92分
ドイツ、オーストリア
¥3,990（税込）
発売:新日本映画社
販売:紀伊国屋書店

今、私たちが食べている食料はどこで生まれ、どのように育てられ、どんなふうに作られているのか？ 世界中の食糧需要を満たすため、野菜や果物だけでなく、家畜や魚でさえ大規模な機械化によって効率的に生産・管理されている。これまで撮影が許されることがほとんどなかった屠畜シーンをはじめ、一つのいのちが人間の食物へと姿を変えていく過程をありのままに描いた「食」のドキュメンタリー。

BOOK　スローな未来へ「小さな町づくり」が暮らしを変える

島村 菜津 著
¥1,680（税込）
小学館
2009年12月

イタリア発祥の「スローシティー運動」になぞらえて、町づくりに奮闘する全国10地域を取材したレポート。受け継がれる景観、地産地消、伝統食、エコによる町づくり、若者を魅了する町など紹介される取り組みは、棚田地域を取り巻くテーマとまさに共通します。「畑の棚田」がある滋賀県高島市の取り組みも紹介。

棚田ネットワークのかつどうノート

ここのコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

棚田ネットの情報発信チームが松崎でワークショップ！

2月～3月

棚田ネットワークの広報部ウェブ担当 高桑と会報誌担当 久野が、「普段着の情報発信」をテーマに、簡単なパンフやブログの作り方のワークショップを行いました。参加したのは、駿河湾と富士山を望める棚田として有名な松崎町石部地区の民宿の女将さんたち。今年行われる棚田サミットへの布石になればと、松崎在住のNPO法人自然環境復元協会・村上知子さんが企画したものです。普段インターネットに慣れない女将さんが、ワイワイ楽しげにブログにチャレンジ！とても有意義な交流になりました。

2009年度の団体訪問聞き取り調査が終了しました

2009年4月～2010年3月

2009年度は、10箇所10団体の調査に、地方在住の６人を含め12人のスタッフが参加。

調査活動は“総合的な棚田学習の場”でもあります。地域の方から、全体的なことも細かいことも含めていろんな話が聞ける。分からない点は率直に質問できる。棚田をしっかり見学できる。棚田を取り巻くさまざまな周辺情報にも触れられる。先輩に同行すれば教わることもたくさん。いわば「生きた“棚田の学校”」です。

2010年は三井物産から助成を受ける最終年度。今年度もどうぞよろしく！

Kamyの【カミー】つぶやき

棚田ネットワークのホームページに付属してブログ版「棚田に吹く風」があります。ここの記事を事務局スタッフのカミーとkuwakuwaのやせ形コンビが担当しています。

私が事務局のお手伝いをするきっかけは「丸の内さえずり館」での「ボランティア説明&会員交流会」です。ここで棚田をとりまく人達の温かさとひた向きさを感じました。会社をリタイアして時間にゆとりができ、ささやかながら社会に貢献する機会を探していたこともあり、間もなく事務局のお手伝いをすることになりました。事務局会議で、ブログなんてあったらいいねと提案したら言いだしっぺがやる羽目に。

それから2年、投稿回数も間もなく３００回を迎えようとしています。手紙やはがき、携帯電話を駆使して、写真を送ってくれる全国の棚田ファン。宮城沖地震では震災直後の棚田の様子を速報してくれた農家の方。この地震の記事には今でもアクセスがあるから不思議です。

会員さんや一般の方が寄せてくれる情報が大きな励みになっています。ブログ、それはたわいもない内容がほとんどです。でも普段着の発信に何か魅力が湧いて来るのです。ブログ名も会報と紛らわしいので、替えようかと思いましたが、アクセス数やリンク数が増えちゃっていまさら出来ません。

パソコンや携帯から覗けますので、お立ち寄り下さい。

つぶやき人
事務局スタッフ カミー
（所沢市在住）

■ ブログ「棚田に吹く風」
http://tanada.sblo.jp/

栃木県茂木町
茂木プロジェクト

春を迎えた岩ノ作棚田

棚田にはタンポポも咲きました。（右上）

2月13日の、雪化粧した岩ノ作棚田での篠竹刈り作業から2ヶ月が経ちました。あの日、自分たちで搗いた餅の味を思い出します。その岩ノ作棚田もすでに春を迎えています。ビオトープ池では、ニホンアカガエルに代わってトウキョウダルマガエルが婚活中です。畔道では、オオイヌノフグリやヒメオドリコソウが大群落をつくり、紫色や小豆色の絨毯を織りなす一方で、タチツボスミレが風に揺れ、カントウタンポポの黄色い花が鮮やかに輝いています。田んぼの準備も始まりました。この棚田のマスコット「ホトケドジョウ」も冬越ししていた水路から田んぼの脇の小水路に移り、間もなく産卵時期を迎えます。

このプロジェクトも6年目を迎えました。今年も体験田植え（5月）、夏の生きもの調査（7月）、体験稲刈り（9月）、収穫祭（11月）など、計画が盛りだくさんです。その間を縫って、棚田・里山保全ボランティア作業も計画中です。今年も「棚田で遊ぼう、棚田で学ぼう」をモットーに、自然との触れ合いを楽しみましょう。皆さんの参加、待っていますよ！　（安井　一臣）

岐阜県恵那市
棚田ビオトープ プロジェクト

第3回かえるの卵を探そう！開催

渓流近くの棚田ビオトープにてヤマアカガエルの卵塊を調査

今年で3回目となった「かえるの卵を探そう！」が3月20日から21日にかけて開催されました。参加者は棚田ネットワークやＮＰＯ法人恵那市坂折棚田保存会、岐阜県立国際園芸アカデミー学生、一般市民など10名。20日は坂折棚田屋敷「なごみの家」にて十日町市立里山科学館「森の学校キョロロ」の学芸員・永野昌博さんによる「カエルが支える棚田の生態系」という講義を聞きました。カエルの種類により田んぼ、ため池、河川、森林、草地といったさまざまな環境を行き来して生活していることが分かりました。棚田ネットワークの活動紹介も兼ねて安井一臣さんによる「栃木県茂木町／岩ノ作棚田の生きものたち」という講義の後、渓流近くの棚田ビオトープに。今年はヤマアカガエルの卵塊が11個見つかりました（昨年は2個、一昨年は3個）。その後、恵那峡グランドホテルで交流会を開催。

21日は「お茶番処」にて恵那市坂折棚田保存会の田口譲さんの講話の後、坂折棚田全体の卵塊調査に出かけました。その結果、15ヶ所で137個のヤマアカガエルの卵塊が見つかりました。　（相田　明）

大阪市中央区
大阪プロジェクト

棚田米穀になりました

大阪プロジェクトのメンバーの一員である私は、上田米穀店のネットショップ担当をしておりましたが、このたび独立し、2010年1月より「棚田米穀」として営業を開始いたしました。

所在地や営業内容は以前と変わらず、ネット販売専業で棚田米と無農薬米を専門に取り扱ってまいります。http://tanada.shop-pro.jp/（棚田どっとショップ - プロどっとジェーピー）が新しいホームページで、棚田にカエルが目印です（写真）。あるいは「棚田米穀」で検索しても見つかりますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

「棚田米穀」にしようと思ったきっかけは、昨年初めて参加した棚田サミットでした。何千人もの人々が一堂に集まるパワーに驚き、米屋として棚田に関わる皆さんのお役に立ちたいと考え、覚えやすくお声をかけていただけるように棚田を屋号に掲げました。「棚田米穀」はまだまだ小さな米屋ですが、棚田の一枚一枚は小さくとも、全体で大きな構造物を作るように、棚田に関わる皆さんと繋がりながら発展していきたいと思います。　（中崎　義志晴）

法人会員紹介：千野米穀店

私たちはお客様に美味しいお米をお届けすることを使命とし、
生産地・生産者と協力しながら社会的な責任のある米屋として
会社づくりをすすめています。
より良いお米づくりが、より良い社会づくりになるよう、
これから七棚田ネットワークを応援します。

高品質・穀物専門店
千野米穀店

■お問い合わせ／ご注文は　http://www.chino-grain.co.jp
Tel.011-733-8158　Fax.011-733-8158
北海道札幌市東区北32条東7丁目3-24

棚田の応援団　わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょう？ 一緒に考えませんか？ ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になると！
会報誌「棚田に吹く風」（年6回）やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト（イベント）への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費
○個人会員
維持会員　1口1万円（1口以上）
一般会員　3,000円
学生会員　2,000円

法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費
○法人会員
1口３万円（1口以上）

この上のスペース（ページ上1/2サイズ）は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。（詳細はお問い合わせください）

編集部から――

会報紙・会報誌・バージョンアップ！

もうお手にとっているのでお分かりと思いますが、今号から会報をネット入稿の印刷会社で印刷することになり、大幅にデザインをリニューアルしました！

今回のリニューアルにあたり、編集部では、サイズを今までのA4版にするか、B5版にするかで、もめにもめ、日夜バトルが繰り返された結果（笑）、女性のバッグにもすっきり収まるフリーペーパーをイメージしたB5判に落ち着きました。

どこか置いてくれる場所があったら送りますので、会員のみなさんもぜひご連絡ください！

15年続いた「会報紙」から、ついに「会報誌」への生まれ変わりです。記事の投稿もどしどしお寄せください！

ホームページのことを見て！

棚田ネットワークHPは、主要検索サイトの「棚田」で、ほぼトップにランクする優良サイトです！内容も盛りだくさん、今年はウェブ独自企画も計画中！乞うご期待。

おすすめコンテンツ

『棚田とは』
中島代表の棚田の定義をシンプルにまとめています！ 棚田って何？と聞かれた時は、こちらをご利用ください！
www.tanada.or.jp

棚田に吹く風
2010年5月号 Vol.70

発行 NPO法人 棚田ネットワーク
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail：info@tanada.or.jp　URL：www.tanada.or.jp

［表紙の棚田］熊本県・山都町　旧白糸第一小学校前の棚田：この写真の撮影ポイントとなった小学校は、通潤橋により開拓された棚田とともに百数十年歩んで来ましたが、2005年に廃校となり現在は役場の仮庁舎として使われています。